





1. 安全のために





① 初めに

 このログ・スプリッタは薪を割るために設計されたものです。ログ・スプリッタを他の目的のために絶対に使用しないでください。薪割り以外の目的のために使用されますと怪我をすることがあります。




② 基本的注意

-  A ログ・スプリッタを二人以上の人が操作するのは絶対に避けてください。ほとんどの事故は二人以上の人がログ・スプリッタを運転しているときに起こります。他の人が薪をのせているときは、その人が装置から離れるまで絶対にコントロール・レバーを操作しないでください。
-  B ログ・スプリッタは子供には絶対に操作させないでください。正しい取扱方法を知らない人には絶対にログ・スプリッタを操作させないでください。
-  C ログ・スプリッタの使用中は運転をする人のみが装置のそばにるようにしてください。その他の人は少なくとも5m以上は離れてください。
- D アルコールや医薬品を服用したとき、または体調が悪いときは、ログ・スプリッタを絶対に操作しないでください。



③ 正しい服装と保護具について

-  A 機械の作動している部分に巻き込まれたりする危険のあるゆるい衣服や装身具は絶対に身につけないでください。
-  B 頭部を保護するヘルメットなどを必ず被り、機械の作動している部分に毛髪を近づけないでください。
-  C 目を保護するためのゴーグルなどを必ずつけてください。
-  D つま先が鋼鉄製の靴やブーツを必ずはいてください。
- E 手首の部分にたるみがなく、ひものついていない手袋を必ずつけてください。
- F 防音耳あてを必ずつけてください。

④ 作業場の準備




-  A ログ・スプリッタは滑りやすい場所や濡れた場所、またはぬかるみや凍った地面の上では絶対に運転しないでください。作業場には足場のしっかりした水平の場所を選んでください。
-  B 運転中は機械が動かないように必ず車輪を固定してください。
-  C ログ・スプリッタは十分に明るい場所で使用してください。
- D 締めきった場所ではエンジンを始動させてはいけません。排気ガスには一酸化炭素が含まれており、これを吸引すると死亡する危険があります。

⑤ ログ・スプリッタの点検




-  A 毎回使用する前に必ずログ・スプリッタの点検を行ってください。すべてのナット、ボルト、締め付けねじがきちんと締められていることを必ず確認してください。油圧オイルタンクとエンジンオイル、燃料タンクが規定量満たされていることを必ず確認して下さい。
-  B 修理が必要なときや機械の調子が悪いときは、絶対にログ・スプリッタを運転しないでください。
- C エンジンを必要以上の回転で無理に運転するのは絶対にやめてください。エンジンの最大回転数はメーカーより安全な範囲内にあらかじめ設定されています。

- D ログ・スプリッタを絶対に改造しないでください。改造を加えるとログ・スプリッタが安全ではなくなる可能性があります。無断で改造された機械に対しては一切の保証はいたしません。
- E コントロール・レバーには絶対にロープや延長部分を取り付けたり、スプリッティング・ウェッジ(刃)の幅を広くしたり、高さを高くしたりしないでください。このような改造を加えると、ログ・スプリッタが安全ではなくなる可能性があります。
- F 使用した後は毎回必ず装置を掃除してください。装置ができれば室内で保管し、屋外で保管する場合は完全にカバーをかけてください。



⑥ 油圧装置の点検

- A  ねじれ、ひび、または損傷のあるホースや管を発見した時は使用しないで下さい。ログ・スプリッタ内では非常に高圧の油圧圧力が発生します。圧力のかかった油圧オイルが小さな穴を通して飛び出すと、失明など重大事故に至るおそれがあります。
- B  油圧装置の部品を交換する前には、エンジンを停止して油圧を逃がしてください。
- C  ポンプやバルブの圧力設定値を調整しないでください。これらの圧力設定値はメーカーによってあらかじめ設定されています。
- D 自分の手で漏れを点検しないでください。漏れはダンボール紙や木片を近付けることにより確認できます。飛び出したオイルによって怪我をした場合はただちに医師に診てもらってください。すみやかに適切な医療処置が施されないと病原菌の感染や悪性の反応が起こる可能性があります。
- E 油圧タンク内の油圧オイルが少ない時は、ログ・スプリッタを絶対に運転しないでください。

⑦ 牽引について (日本の法律では公道は牽引できません。私有地内のみです)

- A  牽引する前には、ログ・スプリッタが牽引車に正しくきちんと取り付けられていることを必ず確認してください。使用する牽引装置のサイズがログ・スプリッタについている牽引装置に合っていることを確認してください。
- B  ログ・スプリッタを牽引するときは、絶対に時速50キロを超える速度で運転しないでください。必要に応じて、地面やその他の状況により進行速度を調節してください。
- C  ガソリントank内に燃料が入っているときはログ・スプリッタを移動する前にはタンク内が空になっていることを確認してください。
- D ログ・スプリッタの上には絶対に人を座らせたり、乗せたりしないでください。
- E 絶対にログ・スプリッタの上に荷物や薪を載せて運ばないでください。
- F 曲がるときや、駐車するとき、交差点を通るとき、またはその他のすべての状況においてログ・スプリッタの長さの分を考慮して運転してください。
- G バックするときは常に注意してください。容易にログ・スプリッタとの連結部で急角度に折れ曲がってしまいます。
- H ログ・スプリッターを使用する前には、必ず牽引車からログ・スプリッタをはずしてください。

⑧ 安全な運転の手順

- A  手や足、または身体のどの部分も機械の作動している部分には絶対に近付けないでください。シリンダーが作動している間は、手や足、または身体のどの部分も薪と刃の間に近付けないでください。
- B  絶対に二本の薪を同時に割ろうとしないでください。一本の薪の上に別の薪を置いたり、二本の薪を連続して置いて割らないでください。

- C 衣服や毛髪、手や足、または身体のどの部分も機械の作動している部分には絶対に近付けないでください。
- D 絶対にログ・スプリッタをまたいだり、飛び越えようとししないでください。
- E シリンダーが作動中は、ログ・スプリッタに薪をのせようとししないでください。
- F コントロール・レバーを操作するときは必ず手で行ってください。足や、ロープや延長用の道具などでは絶対に操作しないでください。
- G 薪にできた裂け目には絶対に指を近付けないでください。裂け目が急に閉じると指や手をはさんだり、切断したりする恐れがあります。
- H ログ・スプリッタに薪をのせる際には、両手を薪の側面に置いてください。刃または底板と直接ふれる可能性のある薪の端には、絶対に手を置かないでください。
- I エンジンの作動中は絶対にログ・スプリッタを移動しないでください。エンジンが冷えるのを待ってから、ログ・スプリッタを移動してください。
- J 作業場には絶対に子供やペットを近付けないでください。作業場に監視されていない子供やペットがいる場合は運転を始めないでください。
- K エンジンの作動中は絶対ログ・スプリッタから離れないでください。短時間離れる場合でも、エンジンを停止してください。
- L エンジンの作動中は絶対にログ・スプリッタの燃料補給をしようとししないでください。
- M 燃料補給をする際には、必ずエンジンを数分間冷ましてから行ってください。
- N エンジンの作動中は絶対に機械の調整をしたり、締め付けねじを締めたり、オイルの量やホースを調べたりしようとししないでください。
- O 割ろうとする薪がログ・スプリッタの上にきちんとおせてあり、コントロール・レバーを操作するときに薪を支える必要がないことを必ず確認してください。
- P 割ろうとする薪が、まったく支えることなくログ・スプリッタの上にきちんとおるように、セットして下さい。
- Q 薪は必ず木目に沿って、あるいは薪の切断面のある端から端にかけて縦方向に割るようにしてください。絶対に木目に逆らって割ろうとししないでください。

⑨ 火災防止



- A 火災や火花の近くでは絶対にログ・スプリッタを運転しないでください。燃料および油圧オイルは可燃性です。
- B エンジン及び油圧装置の上や周囲には、木屑やゴミなどの可燃物がないように掃除をしたうえで、必ず使用するようにして下さい。
- C エンジンの作動中またはエンジンが熱い場合は、絶対に燃料タンクに燃料を入れようとししないでください。エンジンを数分間冷ましてから行ってください。
- D ログ・スプリッタの運転中または燃料補給中は、絶対にタバコを吸わないでください。もし気化したガソリンが発火すると火災や爆発につながる可能性があります。
- E ログ・スプリッタの燃料補給は、必ず気化したガソリンやこぼれたガソリンのない通気性の良い場所で行ってください。必ず認定済みの燃料容器をご使用ください。燃料キャップは必ずしっかりと閉めてください。
- F タンクに補給している間にガソリンをこぼした場合は、こぼれたガソリンが完全に蒸発するまではログ・スプリッタを始動させないでください。
- G 保管の前には必ず燃料タンクを空にしてください。こうすることにより、燃料が気化して火災につながるのを防ぎます。